

月例研究発表要目

- 第 29 回 昭和 41 年 11 月 28 日 宮下忠二氏「キーツのイメージの特質」
 第 30 回 昭和 41 年 12 月 19 日 シンポジウム「『ローマン主義』について」
 第 31 回 昭和 42 年 1 月 30 日 岩田一男氏「中島敦雞肋」
 第 32 回 昭和 42 年 5 月 29 日 橋本郁雄氏「ドイツ方言研究の現状」
 第 33 回 昭和 42 年 6 月 26 日 平野信行氏「フォークナーにおける『共同体』意識——
『サートルイス』を中心に」
 第 34 回 昭和 42 年 9 月 25 日 梅谷文夫氏「通」
 第 35 回 昭和 42 年 10 月 30 日 海老坂 武氏「メルロー・ポンチの言語観をめぐって」

編集後記

第 4 号は見られる通りの「増大号」と
 することができた。次の目標は年 2 回の
 発行であろう。欲を言えばきりがなが、
 ともかくここまで順調に刊行できたこと
 をよろこびたい。これからは、特集号を
 組むとか、時にはきわだって論争的な誌
 面にするとか、大胆な試みもなされてい
 いのではなかろうか。折から「構造主義」
 が次第に前面に姿をあらわしつつあるら
 しい。流行や意匠は論外として、言語を
 めぐる探究がにわかに活潑化してきた気
 配は察せられる。この『言語文化』がそ
 ういう波をかぶることも予想できるし、

むしろそれは望むところなのではあるま
 いか。

「語学研究室」について記せば、7 月
 に根岸国孝氏が急逝された。つつしんで
 哀悼の意を表したい。

なお、杉浦博氏が東京大学に転出され、
 加藤二郎、宮野悦義の両氏があらたに研
 究室のメンバーになられた。

末筆ながら、今回も編集を引き受けて
 下さった志村俊司氏に厚くお礼を申しあ
 げたいと思う。

言語文化 第 4 号

1967 年 11 月 3 日発行 ©

編集 一橋大学語学研究室
 発行人
 発行所 一橋大学語学研究室
 東京都国立市国立

印刷・精興社

近刊：リプリント版

近く刊行が予定されているリプリント版のリストです。

なお、価格は概算ですので、ご連絡いただければ正式の見積書を提出いたします。

- COOPER, T. —Thesaurus linguae romanae et Britannicae. London, 1565. 1802 p. 1968¥ 41,000
- Correspondance littéraire, philosophique et critique par Grimm, Diderot, Raynal, Meister etc. Revue sur les textes originaux par M. Tourneux. 16 vols., Paris, 1877-82. 112+8807 p. 1968.....¥ 145,000
- DIDEROT & D'ALEMBERT —Encyclopédie ou Dictionnaire raisonnée des sciences, des arts et des métiers. 35 vols.(21 vols de Textes, 12 vols. de planche & 2 index). Paris, 1751-80. 1968¥ 590,000
- DIEZ, F. C. —Etymologisches Wörterbuch der romanischen Sprachen. Bonn, 1887. Beigebunden: J. U. Jarnik, Neuer vollständiger Index zu Diez' etymologischem Wörterbuche der romanischen Sprachen. Heilbronn & Leipzig, 1889. 892+382 p. 1968¥ 17,000
- FROISSART, J. —Œuvres. Publiées avec les variantes des divers ms. par le baron Kervyn de Lettenhove. 25 vols., Bruxelles, 1867-77. 13409 p. avec 82 planches & 32 esquisses. 1967¥ 195,000
- GODEFOY, F. —Dictionnaire de l'ancienne langue française et de tous ses dialectes du 9^e au 15^e siècle, composé d'après le dépouillement de tous les plus importants documents manuscrits ou imprimés qui se trouvent dans les grandes bibliothèques de la France et de l'Europe et dans les principales archives départementales, municipales, hospitalières ou privées. 10 vols., Paris, 1881-1902. 67+8012 p. 1968¥ 170,000
- SAINTE-PALAYE, LA CURNE DE —Dictionnaire historique de l'ancien langage françois ou glossaire de la langue françoise, depuis son origine jusqu'au siècle de Louis XIV. 10 vols., Paris, 1875-82. 86+4775 p. 1968¥ 115,000
- STAËL, MME LA BARONNE DE —Œuvres complètes. Publiées par son fils. 17 vols., Paris, 1820-21. 417+7197 p. 1968¥ 120,000

LE DICTIONNAIRE DE L'ACADEMIE FRANCOISE

Première Edition, 2 volumes.

フランス古典の読書に不可欠な辞典といわれるアカデミー・フランセーズ辞典（初版本，1694年版）のリプリントです。

この初版本はフランス語の正しい姿を定めるため，1635年 Richelieu によって創立されたアカデミー・フランセーズが 60 年の歳月を費して 1694 年に完成したもので，現代フランス語の基礎づくりをした点でその意義は今日でも高く評価されています。Racine, La Fontaine, Vaugelas, Fontenelle などが編さんに参加しています。

なお，この初版本は以後の版とは内容がまったく異なり，見出し語の配列も語源別になっています。ただし巻末にアルファベット順の索引がついていまずから，収載ページは容易に知ることができます。

A 4 判 全 2 巻 約 1,500 ページ 堅牢上製 定価 30,000 円
(但し，1968 年 1 月末日まで 特価 27,000 円)

定期刊行物総目録 (1600—1939)

CATALOGUE COLLECTIF DES PERIODIQUES, du début du 17^e siècle à 1939, 4 volumes.

Conservés dans les Bibliothèques de Paris et dans les Bibliothèques universitaires des départements.

フランス国立図書館の編さんになる定期刊行物の総目録（全 4 巻）の第 1 冊目が刊行されました。

この目録は，1600 年から第 2 次大戦までに刊行された全世界の定期刊行物のうち，パリ市内の図書館および地方の大学図書館 75 館に保存されている約 75,000 点を収録したもので，それぞれの内容と保存されている図書館名が記載されています。

既刊 Tome 4: R - Z 20 + 1064 p. 22 × 30 cm 22,500 円

続刊 Tome 3: J - Q (印刷中)

Tome 1 & 2: (1968 年 中に刊行の予定)